



福島県立梁川高等学校

平成 30 年 6 月 27 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 26

■ 樹も草もしづかにて梅雨はじまりぬ (日野草城)

6月10日、東北地方南部が梅雨入りしました。翌日も朝から雨が降り、中庭のケヤキの葉も緑をいっそう濃くし、根元に広がる草も雨露にしっとり濡れていました。ケヤキの樹も下草も静かに梅雨の到来を受け入れているようでした。この時期は終日雨が降り続き、気温が下がる肌寒い日もあれば、低く垂れ込めていた雲が嘘のように消え、朝から陽光が射して蒸し暑い日もあります。また、梅雨前線が停滞し災害をもたらすほどの集中豪雨に見舞われることもあります。体調管理と自然災害には十分に気をつけたいものです。季節は梅雨寒や梅雨晴れ、そして荒梅雨を繰り返しながら確実に夏に向かっていきます。



■ 梁川小学校の児童の来校に想うこと

6月18日(月)、梁川小学校の4年生の児童84名が来校しました。「ふるさと学習」の一環で梁川町の自然と歴史についてフィールドワークをしながら学んでおり、校歌に出てくる場所を調べるのが目的とのことでした。校歌の第二番には確かに『**広瀬川を見おろして、強いそしむ丘の上**』という歌詞があり、かつて本校と同じように梁川城址にあった小学校からは広瀬川を見おろすことができたのです。しかし、平成21年に東日本大震災で被災した小学校は、平成27年に北本町の新校舎に移転し現在に至っています。ところで**本校は戦前の高等女学校時代から梁川小学校とは浅からぬ縁で結ばれていました**。大正8年に本校が梁川町立実科高等女学校として開校した初年度は、梁川尋常高等小学校の教室を一部借用し授業が行われました。大正9年には専用校舎が新築されましたが、大正12年に女学校の講堂と小学校を結ぶ長廊下が作られています。この長廊下はトンネルのような独特な構造をしており町の名物でした。また、戦前は小学校の教員の多くが女学校の教員を兼任していました。なお、女学校時代には独自の校歌はなく、運動会や学芸会等、小学校と合同で開催された行事の際は、昭和2年に制定された小学校の旧校歌を共に歌っていました。以上のことから**女学校時代の本校と梁川小学校は一心同体の間柄**であったと言えるでしょう。第二次世界大戦後、我が国では教育改革が進められ、本校は県立に移管され新制高校として再スタートを切りましたが、同じ鶴ヶ岡地内には昭和22年に梁川中学校、昭和41年には梁川幼稚園が設置されています。つまり梁川城址は幼稚園から高校までが集中する文教地区でありました。昔を知る方々から「**梁川は学園都市であった**」という言葉が聴かれる所以はそのためです。広瀬川を見おろせる自転車置き場に佇み目を閉じると、かつて学園都市であった梁川城址に佇む児童生徒の歓声が聴こえてくるようです。来校した児童達は、引率の先生方やボランティアの方々の説明を熱心に聴きながら、無垢な眼差しを広瀬川の清流に向けていました。私は子供達に**ふるさと梁川を大切に思う心**が育ちますようにと念じながら校舎を後にする姿を見送りました。



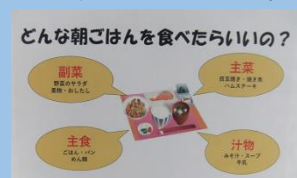
広瀬川を眺める子供達



女学校時代の講堂と小学校を結ぶ長廊下

朝食について 見直そう週間

6月11日から15日までの5日間、第1回「朝食を見直そう週間運動」が実施されました。食に関する正しい知識と関心を持つとともに、生活リズムの改善と望ましい食習慣の形成を図ることを目的としています。施設厚生部の食育係からは、校舎内に啓発のためのプリントが掲示されています。生徒諸君には食の大切さを理解し、毎日朝食を摂り生活のリズムを整えて欲しいと思います。保護者の皆様にはお子さんの朝食の摂取とバランスの取れた食事について特段の配慮をお願いします。



学校公開および学校評議員会が行われました



6月11・12日の2日間、学校公開が行われました。地域の方々や中学校の先生方に本校の教育活動を理解していただく目的で毎年実施しています。例年、中学校の先生方の参観が多く、今年も教え子が真面目に授業に取り組んでいる様子や少人数によるきめ細かな学習指導に対して評価をいただきました。学校公開期間中は互観授業を実施し先生方が授業を互いに参観し合い指導力向上に取り組みました。また、12日には学校評議員会が行われました。校長室で評議員の方々に委嘱状を手交した後、5校時の授業を参観していただきました。6校時の評議員会では、学校の概況を説明させていただいてから、評議員の宍戸弘治様、八巻幸一様、西村佳代様から授業参観の感想と学校運営についてご助言を頂戴しました。

防災避難訓練が行われました

6月13日、地震を想定した防災避難訓練が行われました。緊急放送で地震発生を知らせ直ちに机の下に潜り込み身の安全を確保するよう指示しました。次に地震がおさまった後の行動として、頭を守るものを持ってグラウンドへ避難するよう指示しました。全校生と教職員は避難経路に従って避難を行いました。校長講評において、私からは避難訓練の目的を確認するとともに、東日本大震災発生時の体験、阪神淡路大震災と熊本大地震の被害について話をしました。「天災は忘れた頃にやってくる」の言葉があるように、地震はいつ起きるか分かりません。いざという時に自分の身を守る行動が取れるよう防災意識を持って欲しいこと、「備えあれば憂いなし」の言葉があるように、いざという時に避難経路が頭に入っていれば、迅速な避難行動が取れることを伝えました。最後に生徒達は避難場所周辺の交通が遮断されたことを想定し、SOSの人文字を作成しました。1年生が「O」、2・3年生が「S」を担当しました。



SOSの人文字をつくる生徒諸君

※その後、18日に大阪北部地震が発生しています。

選択科目ガイダンスが行われました

6月19日は1年生、6月21日は2年生を対象に選択科目ガイダンスが行われました。各教科担当の先生方からは、科目の特色や履修する際の留意点について説明がありました。生徒諸君には自分の適性と進路希望を十分に踏まえて、来年度の選択科目を選んで欲しいと思います。



県高校音楽学習発表会が行われました

6月22日、福島県高等学校音楽学習発表会が行われ、本校音楽部が出場しました。合唱部門では「Ave Maria」「ひまわりの約束」を披露し、吹奏楽部門では川俣高校と合同して「カルメンより闘牛士の歌」「宝島」を演奏しました。生徒諸君には他校の演奏から学び、自分たちの今後の活動に生かして欲しいと思います。



研究授業を振り返って

6月12日、現職教育の一環として保健体育科の添川隆博教諭による研究授業が行われ、多くの先生方が参観しました。「中高年期の健康」をテーマとした保健の授業を通して、学校全体で指導力向上と授業改善に取り組まれました。インタビューを行い添川先生に研究授業を振り返ってもらいました。



Q1 授業で成功した点を挙げてください。

A1 まず導入において生徒がよく知る芸能人の画像を活用し中高年期のイメージを視覚化することで、授業に対するモチベーションを高めることができた点です。

Q2 授業のヤマ場である言語活動について手応えはありましたか？

A2 生徒達は老化の不安に対する自分の対処法を伝え合い、級友のアドバイスをワークシートに丁寧に記入し、グループごとに発表するなど、主体的・対話的に授業に取り組んでくれました。

Q3 課題はどんな点ですか？

A3 生徒達の思考を促す効果的な発問と終末における振り返りの確保です。今後も継続的に授業改善を図り指導力向上に努めたいと思います。

お知らせ

■全国高校野球選手権福島大会の組み合わせ

日時 平成30年7月11日(水)10時より

会場 白河グリーンスタジアム

対戦相手 白河高校対相馬農業高校戦の勝者

※今大会は川俣高校との連合チームとなります。

■梁川高校同窓会総会・懇親会の日程

日時 7月7日(土)午後6時より

場所 JAふくしま未来 みらいホールラブル

※問合せ先は同窓会庶務 伊藤 024(577)5553

部活動だより

■福島県総合体育大会県北地区予選の結果

【バスケットボール】(6/16)

1回戦：川俣・梁川 28-153 安達

【弓道】(6/16)

個人戦：予選敗退

【ソフトテニス】(6/22・23)

男子個人戦：5ペア初戦敗退

男子団体戦：11位

【陸上競技】(6/22~24)

男子5000M 渡邊泰幸 7位入賞

男子10000M 渡邊泰幸 5位入賞

※1万メートルで県大会出場権獲得

